

社会資本総合整備計画  
都市再生整備計画 事後評価シート  
綾地区(3期)

令和7年3月

宮崎県綾町

様式2-1 評価結果のまとめ

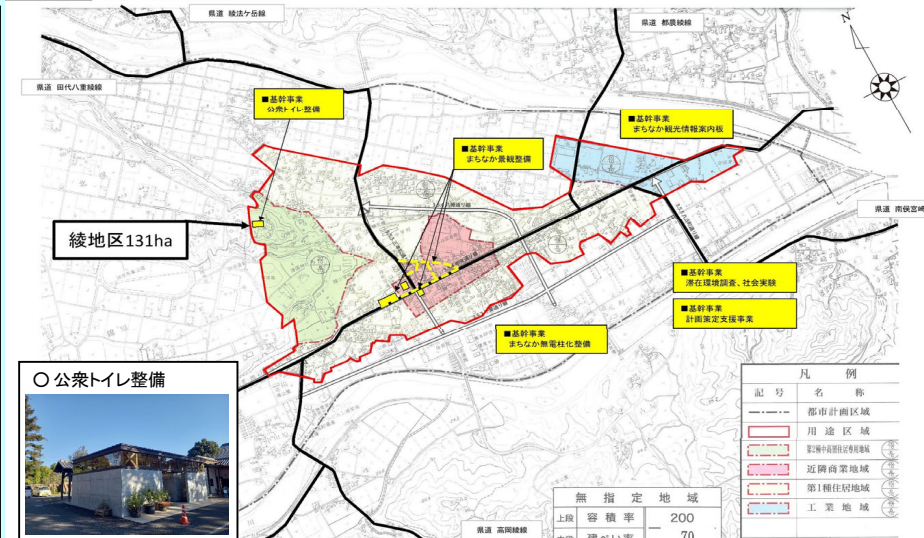
都道府県名	宮崎県		市町村名	綾町		地区名	綾地区(3期)			面積	131ha		
交付期間	令和1年度～6年度		事後評価実施時期	令和6年度		交付対象事業費	395(百万円)	国費率	0.48				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
	基幹事業		まちなか観光情報案内板整備、まちなか無電柱化整備、公衆トイレ整備(バリアフリー対応)										
	提案事業		事業効果分析										
			事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	当初計画から削除した事業		基幹事業 ・まちなか広場整備(ポケットパーク、都市イベント広場等) ・まちなか景観整備(高質化等)			・合意形成が図れず完成が見込めないため削除。 ・関連事業の進捗遅延により完成が見込めないため削除。			-				
	新たに追加した事業		基幹事業 ・滞在環境調査、社会実験(綾まちなか地区)、計画策定支援事業			・滞在環境創出・強化のため事業の追加			-				
交付期間の変更		当初 令和1年度～5年度		変更 令和1年度～6年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-					
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	まちなか歩行者数	人/年	48,000	H30	90,000	R5	-	26,000	×	あり なし	綾のまち(中心市街地)に滞在する機能が充実してきているものの、綾の顔づくりは未だ形成途中であり、目標値までは達しなかった。	令和7年5月頃
	指標2	まちなかイベント開催日数	日/年	20	H30	24	R5	-	25	○	あり なし	町内の小中学生が関わるイベントが新たに開催される等、様々な町民がまちなかで活動し、楽しんだり、色々な人とつながったりする機運が醸成されてきており、目標値を上回るイベントが開催されたと考えられる。	令和7年5月頃
指標3									あり なし				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	まちなか歩行者数(回遊ネットワーク)	人/年	26,000	H30	/	-	49,000	/	/	綾のまちでの取組により、滞在する機会や魅力が高まっている状況により、回遊ネットワーク上における歩行者数が増加していると考えられる。	令和7年5月頃	
その他の数値指標2	公共空間における新たな官民連携プロジェクト数	プロジェクト	0	H30	/	-	3	/	/	本計画期間で特に(改めて)、人が暮らす地域(移行地域)において、様々な町民が活動し、楽しんだり、人とつながったりする機運が醸成されてきていることが、官民連携の新たなプロジェクトの創出につながったと考えられる。	令和7年5月頃		
4)定性的な効果発現状況	・公衆トイレ整備事業により、老朽化施設が改善され、中心市街地の拠点施設(綾手づくりほんものセンター)における快適性の向上が図られた。												
5)実施過程の評価			実施内容			実施状況			今後の対応方針等				
	モニタリング		なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			-				
	住民参加プロセス		まちなか社会実験において「綾町のウォークアブル構想」等についての周知			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 今後も継続して情報発信等に努め、「多様な主体」が参加するまちづくりを進める。				
	持続的なまちづくり体制の構築		まちなかウォークアブル等に資する官民連携の体制を構築			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 「自然と共に生きる」というまちづくり理念のもと、多様な世代・主体等が協働で進めるまちづくりの推進を図る。				

## 様式2-2 地区の概要

### 綾地区(3期)(宮崎県綾町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
[大目標] '自然と人が共生するまち・ユネスコ エコパークのまち' の中心市街地にふさわしい、町民と訪れた方が『出会い・ふれあい・分かち合える』綾の顔づくり [目標1] 人と人との交流の拠点としての中心市街地の賑わいを再生するために、まちぐるみでの綾の顔づくりと住民創意の活力のあるまちづくりを目指す。 [目標2] ユネスコ エコパークのまちの中心市街地にふさわしい空間づくりにより、町民や訪れる人の心身の健康を増進する美しい綾づくり・景観まちづくりを推進する。	まちなか歩行者数 単位: 人/年	48,000 H30	90,000 R5	26,000 R6
	まちなかイベント開催日数 単位: 日/年	20 H30	24 R5	25 R5
	まちなか歩行者数(回遊ネットワーク) 単位: 人/年	37,000 H30		45,000 R6
	公共空間における新たな官民連携プロジェクト数 単位: プロジェクト	0		3 R6

#### ○ 新たな道路空間づくり社会実験の様子(R4)



#### ○ 公衆トイレ整備



#### ○ 新たな道路空間づくり社会実験の様子(R5)



#### ○ 『まちにわ』プロジェクトの様子



#### ○ 綾町ウォーカーブル構想の周知(社会実験実施中)



#### まちの課題の変化

##### 【達成されたこと(課題の改善状況)】

- ・本事業によって、中心市街地の拠点施設(綾手づくりほんものセンター)の快適性向上を図った。
- ・また、様々な町民がまちなかで活動し、楽しんだり、色々な人とつながりやすくなる機運が醸成されてきており、まちなかでのイベント数が増加したり、公共空間において多様な世代・主体が協働で進めるまちづくり(『まちにわ』プロジェクト)の創出・推進が図られた。
- ・まちなかウォーカーブル区域内において無電柱化等の事業を進めることで、美しい綾づくり・綾の顔づくり推進の機運、民間・地域の方も参加するまちづくりの機運が高まってきている。
- ・まちなかウォーカーブルにおいても重要な「みち」において、新たな道路空間づくりを実践・検証する社会実験を、多様な主体と一緒に実施すること等により、新たなみちの使い方や官民連携・多様な主体の連携によるまちづくりの機運醸成が図られた。

##### 【残された未解決の課題】

- ・本町の中心市街地において、様々な主体による活動が進められているものの、綾の豊かな照葉樹林(核心地域)・緩衝地域・移行地域の有機的な繋がり(綾の自然・みどり)を体感できる中心市街地の形成という視点では課題が残った。
- ・未完了区間が残る等、美しい綾づくり・綾の顔づくりに向けて、継続的な事業推進(未完了区間の継続的な無電柱化推進や緑のネットワーク化)が必要な状況にある。
- ・まちなかにおける日常的な歩行者数は未だ十分に増加している状況ではない。引き続き、まちなかの滞在快適性を向上する取組の実施や、綾町の目指すべきまちづくり(自然共生型まちづくり)を推進する必要がある。

#### 今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

##### 【効果を持続させるための基本的な考え方】

- ・まちなかの公共空間等において、多様な世代・主体が協働で進めるまちづくりの継続推進
- ・美しい綾づくり・綾の顔づくり推進に向けた基盤づくりの継続推進
- ・3期計画で進めた、新たなみちの使い方や官民・多様な主体の連携によるまちづくりの機運醸成を活かした、更なる事業の推進

##### 【改善策の基本的な考え方】

- ・「綾の自然・みどり」を体感できる中心市街地の形成の推進
- ・自然を介して交流するグリーンコミュニティの推進
- ・自然共生型まちづくりを展開していく機運の醸成と活動支援(より多くの町民が関わるための取組の推進)

都市再生整備計画 フォローアップ報告書  
綾地区(3期)

令和8年3月

宮崎県綾町

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
指標1	まちなか歩行者数	人/年	48,000	90,000	26,000	確定	×	あり	24,000	R7年6月	×	本指標は平日・休日各1日の実測値を基に年間人数を推計していることから、実測日に起因するバラつきは想定される。そのような中、評価値と推計値の差は1割未満(8%程度)であることから、概ね信頼できる数値と考えられる。	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	無電柱化整備や社会実験、新たな官民連携プロジェクト等により、まちで滞在する機能が充実してきている。しかしながら、綾の顔づくりは、未だ形成途中であり、常に歩行者が増えている状況ではないことから目標値には達しなかった。
指標2	まちなかイベント開催日数	日/年	20	24	25	確定	○	あり	28	R7年5月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	本計画の以前より開催されていたイベント(納涼夜市、雛山まつり)に加えて、まちなかの公共空間(広場等)を活用したイベントや町内の小中学生が関わるイベントが開催される等、様々な町民がまちなかで活動し、楽しんだり、色々な人とつながったりする機運が醸成されてきている。このような機運等を背景として、目標値を上回るまちなかでのイベントが開催されたと考えられる。	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	まちなか歩行者数(回遊ネットワーク)	人/年	26,000	/	45,000	確定	/	/	46,000	R7年6月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	綾の顔づくりは未だ形成途中であるものの、無電柱化整備や社会実験の実施等に加えて、中心地(まちなかウォークアブル区域)の公共空間において新たな官民連携プロジェクトが生まれる等、中心地で滞在する機会や魅力が高まってきている。このような状況により、回遊ネットワークにおける歩行者数が増加する結果になったと考えられる。
その他の数値指標2	公共空間における新たな官民連携プロジェクト数	プロジェクト	0	/	3	確定	/	/	3	R7年5月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	これまでも本町では、自然と人が共生するまちづくり・ユネスコエコパークのまちづくりが進められてきているが、本計画期間中においては特に(改めて)、人が暮らす地域(移行地域)において、様々な町民が活動し、楽しんだり、人とつながったりする機運が醸成されてきている。このような機運等を背景として、本町の目指すまちづくりに沿った「官」と「民」が連携した新たなプロジェクトが取り組まれる状況につながったと考えられる。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

## 2. 今後のまちづくり方策の検証

### 様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)	実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項	
・成果を持続させるために行う方策	継続した、出会い・ふれあい・分かち合いの場の活用推進	公共空間において多様な世代・主体が協働で進めるまちづくり(『まちにわ』プロジェクト)の継続推進に加えて、町内イベント(マラソン)において中学生がまちの魅力発信を図る取組等が実施された。	『まちにわ』プロジェクト等に関わる町民も広がってきている。	高まってきている機運を活かし、持続的な取組につながるような継続推進が必要である。
	継続した、美しい綾づくり・綾の顔づくりの推進	引き続き、まちなか無電柱化事業を実施した。	美しい綾づくり・綾の顔づくりを推進するエリアでの、無電柱化が進んでいる状況にある。	無電柱化事業を継続(令和8年度に完了予定)するとともに、まちなかでの緑化等、「美しい綾づくり・綾の顔づくり」を更に進めていく必要がある。
	継続した、出会いのみち・まちあそびのみち・高齢者と子どもに優しいみちの活用推進	公共空間(中心地の道路等)を活用した、商工会と連携したイベントを実施した。	公共空間を活用する取組等の継続により、町民による主体的な取組に広がり等が出てきている。	持続的な取組としていくために、町民・民にとってメリットがあり、町民・民が取組の主体となる体制づくりを検討・構築していく必要がある。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	核心理域から人が住む移行地域への有機的な繋がりが(綾の自然・みどり)を体感できる中心市街地の整備	引き続き、奥山・里山・まちなかの緑、綾の自然がつながる取組の実施。(大学との連携・グリーンインフラの構築。)	本町が目指すまちづくりの実現に向けて、取り組む関係者・ネットワークが強まってきている。	「綾の自然を学ぶ機能」の強化等、まちなかでの綾の自然・みどりの創出・活かし方や、持続性の視点を持った取組が重要である。
	自然と人が共生するまちの考えに沿った、交流・協働プロジェクトの継続推進・強化	継続した、まちなかでの交流イベント等を実施した。	まちなかでの取組に関する機運が、更に高まる状況に至っている。	民間(商工会)主体により、空き店舗活用の動き等がある中で、側方支援・後方支援を検討する必要がある。
	自然共生型まちづくりを持続的に展開していくための取組の継続推進	様々な町民にとって居心地のよい場(例:不登校の子どもの居場所や、学んだことを披露する場)にもなる、自然共生型の場づくりの検討等を行った。	地域活性化や暮らしの拠点(防災・減災等の視点含む)等、様々な機能が重なる場づくりの必要性を、改めて認識した。	都市再生整備計画(4期計画)で掲げる滞在環境整備事業やグリーンコミュニティ活動事業等を推進する必要がある。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

### 様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項